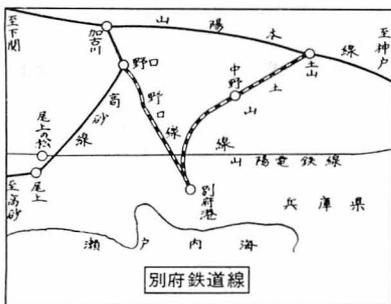


単線、動力蒸気・ガソリン、軌間1.067m、旅客・貨物運輸を目的とする。

野口線 野口・別府港間3.6km、大正2・11・21免許、同10・9・3開業。土山線 別府港・土山間4



km、大正9・1・29免許、同12・3・18開業。

3 運輸の特長 本鉄道沿線では、過燐酸・硫酸等の人造肥料年産30万tに達し、貨物輸送はこれら肥料が主となっている。

4 沿線の観光地 浜の宮杉林(別府港駅)、鶴林寺(野口駅)。

5 運輸概況

項目	年度		
	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	91	111	121
人キロ(千)	274	360	379
貨物輸送トン数(千t)	166	159	173
トンキロ(千)	662	635	557
旅客収入(千円)	710	838	902
貨物収入(〃)	26,378	25,175	27,198
運輸雑収(〃)	4,947	4,732	5,101
収入合計(〃)	32,034	30,745	33,201
営業費(〃)	31,025	31,076	32,771
営業利益(〃)	1,009	△ 331	431
営業係数(%)	97	101	97

(原 功)

ベルギーのてつどう ベルギーの鉄道 ベルギーにおける最初の鉄道は、1835年ブラッセル＝マリヌ間に開通した。当初鉄道の敷設はもっぱら国家の手によって行われ、1844年までに555kmの建設をみた。この年から政府の認可の下に私鉄会社が建設に乗出すようになり、1870年までに2,221kmの鉄道を完成した。一方国有鉄道の建設速度は緩慢で、1870年までに869kmが完成したに過ぎなかった。

1873年以来政府は私鉄の買収に着手し、1914年には少しの例外を除いて全幹線鉄道を国有化した。その後1918年ころから国有鉄道の自主化が提唱され、第1次大戦後のベルギー通貨の暴落を契機として、1926年に国有鉄道は「ベルギー国有鉄道会社」という新経営形態に改組された。

国有鉄道会社が標準軌の幹線網をもって構成されているのに対して、狭軌の2次的線路網は「国有地方鉄道会社」に所属している。この2大組織はベルギー鉄道の根幹をなすものである。なおベルギーの鉄道は、その面積当り稠密(ちゆうみつ)度において世界第1である。

1 ベルギー国有鉄道会社(Société Nationale des Chemins de fer Belge) 略称 S. N. C. B. この会社は1926・7・23の法律によって設立されたもので、同年8・1より75年間、国有鉄道を経営する権利を有している。本社の所在地ブラッセル、資本金110億ベルギーフランで、額面100億ベルギーフランの普通株1千万株と額面500億ベルギーフランの優先株2千万株とから成る。普通株は国家の名義で登記され譲渡を許されないが、優先株は譲渡することができる。普通株は議決権の80%を占めるので、その所有者たる国家は株主総会において決定的な勢力を有して

いる。

株主総会は10株以上の優先株の所有者と普通株の所有者すなわち国とで構成される。総会は貸借対照表および損益計算書を承認する。会社の政策決定機関である管理委員会は任期6年の21名の委員(18名は国王によって任命され、残りの3名は従事員によって直接選定される)をもって構成される。管理委員会はその会員以外から総裁を選任する。なお管理委員会の会長には鉄道大臣が就任する。監督は任期6年の6名の監査役をもって構成される監査役会(collège de six commissaires)によって行われる。監査役のうち3名は下院、残りの3名は上院から選出される。

ベルギー国有鉄道会社は1956・6・3以降、旅客列車は1等および2等だけとなり、旅客基本賃率は1等1km1.40、2等0.85ベルギーフランとなった。貨物運賃は従価主義を採用し、車扱貨物には8等級制を実施している。なおいわゆる中心駅制度を推進して、鉄道とトラックの協力による貨物輸送の合理化に成功しており、1956年末現在におけるガレージの数は43に達している。1946・12・30の王令にもとづいてバスの経営をも認められ、1956年末現在において、直営のものおよび委託によるものをふくめて441路線、合計15,633kmを経営している。このほか欧州鉄道道路輸送連合会の運営するヨーロッパバス組織にも参加し、さらに学童および労働者のための特別バスサービスも行っている。

営業キロは1956年末現在において4,951km(軌間1.435m)に達し、この内760kmが電化(3,000V直流方式)されている。蒸気機関車1,774、電気機関車140、ディーゼル機関車182、電動車187、ディーゼルその他の動車182、客車4,621、荷物車2,017、貨車70,263両を有し、従事員の総数は75,118人である。1956年度の輸送成績は、旅客が8,333百万人キロ、貨物が6,922百万トンキロで、営業収入11,972,574千ベルギーフランに対して営業支出は11,449,635千ベルギーフランに達し95.63の営業係数を示した。

2 国有地方鉄道会社(Société Nationale des Chemins de fer Vicinoux) 略称 S. N. C. V. この会社は地方の交通開発のために1885年に設立されたもので、当初は蒸気運転を行っていたが、1894年より電気運転に転換し、さらに1930年代にはディーゼル運転をも採用し始めた。1955年現在において、その営業キロは2,352km(軌間は大部分が1mの狭軌)に達しているが、電化区間(600V直流方式)は1,240kmにおよんでいる。車両保有数は蒸気機関車49、電気機関車1、電動車およびディーゼル動車1,135、各種付随車530、貨車6,844両に達し、営業収入1,274,429,801、支出1,242,691,358ベルギーフラン、営業係数97.51を示した。なお1924年の法律によりバス経営権を認められて以来、バスサービスは急激に発達し、1955年末現在において、合計5,526kmに達している。資本金は1,206,386,000ベルギーフランで出資比率は国家が約48.1%、県が約28.5%、市町村が約22.9%、残余は民間の個人となっている。

会社の政策決定機関として、委員長1名および委員6名をもって構成される管理委員会が設けられている。委員長および3名の委員は国王によって任命され、残りの委員3名は株主総会において選任される。執行責任者たる総裁も国王により任命される。

参考文献 Bulletin de l'Union Internationale des Chemins de fer 1957. World Railways 1954~55. Statistique Internationale des Chemins de fer 1956. Rapports de la Réunion Commune des Commissions Trafic-Voyageurs et